

株式会社ジェイシーエフ

雄勝郡羽後町西馬音内字中野153-8

生地を自社加工することで生地調達のボトルネックを解消 多様な色彩や柄の自社加工生地を使用した提案営業を強化

【事業計画名】生地自社加工による作業効率向上ならびに生産地からの提案型営業力の強化



導入した熱転写プリンター



導入した熱転写システム

取り組みの経緯

ジェイシーエフは昭和63年の創業以来、高い安全性と技術力が要求される高級子供服の製造をメインに手掛けている。アパレル全体が苦戦するなか、成人女子・少女服ジャンルは堅調に推移しているが、高品質な商品へと嗜好が拡大しており、これに対応するための国内生産の見直し、企画提案や独自技術などが求められている。

当社では、縫製の3大技術のうち布帛(伸縮性のない薄地の生地)およびカットソー(伸縮性のある生地)に対応可能な強みを活かし、高級子供服および高級婦人服をOEM生産している。OEMは子供服・婦人服とも生地支給となることが多いが、生地メーカーとの打ち合わせや生地製造ラインの確保等に時間を要し、調達までにサンプル向けで約3週間、量産向けで約2か月の期間を要していた。そのため、納品までの期間4か月のうち3か月近くが生地調達に必要な期間となっていた。

実施内容

生地調達に時間を要するため、短納期が求められるトレンドサイクルの早い商品やヒット商品の増産依頼を取り込むことができなかった。また、サンプル向けの生地は量産向けの4～5倍の価格となるが、量産に至らない場合は全てロスとなり粗利益を圧迫していた。さらに縫製作業期間は実質1か月強しかなく、繁忙期が集中するため時間外労働が増加していたほか、従業員のプライベートや家庭生活に影響を与えることも多かった。

そこでこうした状況を打開するため、生地の自社加工を行い、熱転写技術によりインクが生地に昇華し、繊維に浸透して染色のような仕上がりになる昇華型プリント設備を導入した。

熱転写は転写紙の色味がそのまま生地には反映されないため、希望の色味を出すことが非常に難しいが、色彩感覚に優れた元カメラマンの従業員が生地の素材や厚さ・処理速度について研究を重ね、技術を習得した。

事業の成果

生地の調達期間が15日へと大幅に短縮したことで、ヒット商品の追加発注のような小ロット短納期や商品サイクルの短い婦人服において要求される2～3週間の超短納期も対応可能となった。また、従来に比べ生地単価が低下したことに加え、ロスが大幅に減少し、粗利益が改善した。さらに生地加工から縫製までを一貫生産することで、生地調達の遅れ等の外部要因が排除できた。作業量を自社でコントロールすることが可能となり、繁閑差を平準化させることができた。時間外労働が減少し、労務費が減少したほか、家庭をもつ従業員が仕事を続けやすい労働環境になった。



転写紙(上)と生地(下)の色味の違い



自社加工生地を使用した製品例



金属探知機で納品前に縦横二重で確認

当社は平成29年に創業30周年を迎えました。当社では経営理念のほか、会社・管理者・社員・総務・営業ごとに行動指針を掲げ、従業員の教育を行っています。待遇や福利厚生などの見直しに加え、平成30年12月に工場を増築するなど労働環境の改善にも取り組んでおり、離職率も低下しています。また、社員旅行や忘年会を開催し、社内の親睦を図るとともに組織としての一体感を醸成しています。これからも全社員とその家族が明るく豊かな生活を営むことができるよう精進したいと思います。



代表取締役
阿部 勇夫さん

今後の活動予定

当社のデザイナーやパタンナー(デザイン画を基に型紙を製作する担当)が文字やデザイン画など2次元による提案に留まらず、サンプル品を低コストかつ短期間で作成することが可能となった。この強みを活かし、多様な色彩や柄の自社加工生地を使用した提案を強化している。価格決定力を持たない工賃商売から脱却し、独自の製品提供が可能となった。

平成27年には念願であった自社ブランドを立ち上げた。製品は東京都内の直営店やオンラインショップなどで販売している。年々、国内外からの注文が増加しており、ブランド力も確立されつつある。



株式会社ジェイシーエフ

代表者	代表取締役 阿部 勇夫
創業	昭和63年7月
資本金	2,000万円
従業員数	58名
業種	繊維工業
TEL	0183-62-5270
FAX	0183-62-4968
URL	k-jcf.co.jp